



鷹山宇一記念美術館友の会会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

平成23年12月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会

〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



▶ 逝去された1999年10月のカレンダー。鷹山先生のどんな秘密が隠されているのか？ 答えは、美術館に展示中のアトリエで確認を！



鷹山宇一のアトリエに遺された資料たち

只今展示中の、再現した「鷹山宇一のアトリエ」。アトリエについては以前にも同じ12月号で書かせていただいた。冬の常設展の期間中は、先生のお誕生日である「遊蝶記」もあるし、一年の中でも鷹山作品を存分に楽しめる期間でもある。「アトリエは何としても欠かせない。そして、子どもたちが沢山訪れる鷹山賞児童作品展の開催期間中であるからこそ、人間味あふれる素のままの画家を知る貴重な資料として、絶対に外せない。鷹山宇一先生を自分の身近な存在として、感じてほしいからだ。

実際の「アトリエ」を私は拝見したことはないし、ゆつくりとお話を伺う機会もなかった。けれども、わからないからこそその特典があり、それは、配置された様々な品々から、沢山の場面を想像する自由であり、これがとても楽しい。

例えば、スクラップ帖…雑誌の写真を切り抜いたものが、「花」「海」「風」などジャンル毎に細かに分けられ整理されている。モチーフが決まると、きつとここから必要なものだけを剥がして手元に置き、参考にしていただろう。90才まで現役の絵描きであった先生にとって、モデルを求め一人で自由に外を歩き回ることはなかなか困難であったらうから、便利だったのでは？

また、沢山の面相筆とゴルフボール3個をガムテープでぐるぐるにしたもの…私は作品に必ず描かれる精緻な蝶に注目する。鱗粉の質感までも表された蝶は、細い筆先で隅々にまで丹念に描かれている。では、あるからこそ、スゴイ肩こり、腕こり、手こり、だったんでは？ お手製のゴルフボール指圧器の完成!!

そして、世界地図…アトリエの壁に飾られていたとか。高いところが大の苦手な飛行機なんてとんでもない、そんな先生が海外にお出掛けになったという記録はもちろんない。洋ランパのコレクターとしても知られる、洋風の洒落た建物を「花と蝶」の背景に配することも多い画家なのに…。そんな鷹山宇一先生のアトリエでの様子を私は勝手に想像する。制作の手を休めず、先生が世界地図に目をやり西洋の街を散策する自分に思いを馳せる…アトリエでちよっぴり寛ぐ先生のそんな姿。楽しいではありませんか！

(学芸員)

鷹山宇一記念美術館友の会 平成23年度第2回研修旅行 宮城県立美術館
「フェルメールからのラブレター展」に行ってきました

深まる秋の一日、東北新幹線・七戸十和田駅を利用して、宮城県立美術館開館30周年記念「フェルメールからのラブレター展」鑑賞の研修旅行を実施しました。今後も東北新幹線を利用した研修旅行を企画して参りますので、会員各位のご参加をお待ちしております。

フェルメール展
を見て

十和田市 中谷知子

十一月二十日、友の会の盛田会長を団長に私達十一人は、フェルメール展を見に、仙台まで行ってきました。オランダを代表する画家と言えどゴッホとフェルメールでずッホとフェルメールで見ると、今まで画集やテレビで見るばかりだったフェルメールの本物が見られるというので楽しみにしていました。十時三十分には仙台駅着。ホテルメトロポリタンで早めの昼食を取った後、タクシーに分乗して宮城県立美術館に向かいました。

「手紙を読む青衣の女」の大きな看板に迎えられる、いざ館内へ。十七世紀のオランダの庶民の暮らしがうかがえる穏やかな作品が並ぶ中、お目当てのフェルメールは「手紙を書く女」、「手紙を読む女」と召し使い、



宮城県立美術館前で記念写真

「手紙を読む青衣の女」の三点。大きい作品ではない事は承知していましたが、予想をはるかに超える小ささに先ずびつくり。でも、じつと見ていると、光の微妙な変化や質感の違い、椅子やテーブル、バッグなどが細部に至るまで、丁寧に描き込まれ、フェルメールならではの世界が、そこにはありました。特にブルーの色調の美しさは何とも言えません。作品の価値はサイズではないと言

うことを改めて実感させられ、見に来て良かったと、充実感を覚えた一日でした。

TAROに会いに。

縄文土器が美術、芸術として見直されるきっかけをつくったのが、1981年にテレビコマースィヤルに登場し「芸術は爆発だ!」というフレーズで一世を風靡した芸術家・岡本太郎だということを最近になって知り、東京都港区南青山にある岡本太郎記念館を訪問しました。

訪れたとき、太郎生誕100年祭の最後を飾る企画展『ヤノベ・ケンジ・太陽の子・太郎の子』が開催中でした。

絵の具が飛び散ったままのアトリエ。1970年に「人類の進歩と調和」をテーマに開催された大阪万博のシンボルタワー「太陽の塔」や巨大壁画など、その全てが創作、制作された場所。「なんだこれは」という不思議な空間のなかで時間をかけて、岡本太郎の芸術と企画展を楽しみました。パンフレットには「最大の特徴は、太郎の『気配』があること」、「一般の美術館が『観に行く』場所だとすれば、この岡本太郎記念館は、『感じる』場所なのかもしれない」と記されています。

五十年以上にわたって、芸術家・岡本太郎の戦闘拠点であり、アトリエであり、住まいだった空間には、確かに彼の気配とエネルギーが満ちていたと思います。

岡本太郎に圧倒されましたが、前向きで愉快な気持ちでいただいた記念館訪問でした。
(文中、敬称は略させて頂きました。照井)



岡本太郎記念館外観 (1998年5月開館)

ご利用案内

開館時間： 10:00~18:00
(入館は、17:30まで)

休館日： 火曜日 (祝日の場合は開館)
* 年末年始 (12月28日~1月4日) 及び
保守点検日)

観覧料： 一般600円 (500円)
小学生300円 (200円)
* () 内は、15人以上の団体料金

交通案内： 営団地下鉄 銀座線・千代田線・半蔵門線
「表参道」駅より徒歩8分

* 最新情報は、岡本太郎記念館のホームページをご覧ください。

12月10日鷹山宇一先生誕記念日

遊蝶記 から

本年も残すところあと僅か。またもや1年が終わり新たな1年がはじまるうとしています。鷹山宇一先生を偲ぶ「遊蝶記」も12回を数えまじつた。常に鷹山作品と共に日常を過ごすことのできる我々スタッフは、いつでも鷹山先生がそばにいてくれるかのような恵まれた環境の中で日々を過ごしておりますので、12回目の遊蝶記、そして、本年13回忌を迎えたことに、長い年月の経過など意識することはありませんでした。しかしあらためて考えますと、鷹山先生が天国に召された1999年、同年

に誕生した赤ちゃんも今は小学6年生です。時は確実に刻まれ未来へと進んでいきます。あつという間に過ぎ去っていく年月のやり直しはききません。軽はずみな言葉であつたり、悔いを残すような行動は慎み、反省を忘れず、熟慮をもって貴重な一瞬の日々を過ごしていきたい、また、今日の日を大切に生きていくこと、そしてその積み重ねを大事にしていくことを、今年の遊蝶記を迎え、心に誓いました。今、1年を締めくくるにあたり、皆さまはどのような思いでお過ごしでしょうか。



鷹山増子夫人をはじめ長女で青森県立美術館・鷹山ひばり館長・三女の廣田くるみさんも出席されました。

本年も多くの方々が「遊蝶記の集い」にお出掛けくださいました。ハッピーバースデーの歌とケーキで鷹山宇一先生103才のお誕生日をお祝いして、先生との思い出を語り合い、近況の報告をするなど、新たな1年を迎えるにあたって心の準備・整理をさせてくれる、そのような「遊蝶記」ではなかったかな、と感じております。

特別展 Now

只今開催中の特別展をご紹介します。冬休みにゆとりの一時を！是非ご来館ください！！

平野勲 展

漫画で描く日本の祭り

平成24年1月22日(日)まで
*休館日 毎週月曜日 / 年末年始(12/30~1/2)

鷹山賞児童作品展入賞入選作品展開催にあわせ、島根県出雲市出身の漫画家・平野勲氏による作品展を開催しております。
全国の「祭り」をテーマに描き続けた平野氏は、晩年を三沢市に過ごし、87才の天寿を全うしました。ほのぼのとした独特な作風は、多くの人々から愛され、2007年には郷里・出雲市に「平野勲記念館」がオープンしています。
本展では、出雲市の記念館より青森県ゆかりの作品を中心に代表作をお借りして、前期後期と作品を入れ替えてご紹介します。

お祭りはその地域の歴史と伝統に触れるとともに、何才になっても心躍る楽しさがあります。また、「祭り」を題材に生涯にわたって一筋に描きつづけた平野氏の制作活動への情熱に触れ、特に未来を担う子どもたちには、信念を持って生きることの大切さや難しさをも感じ取っていただけたなら、望外の幸いに存じます。是非ご家族で高覧を賜りますよう、ご来館をお待ち申しあげております。
※常設料金で全館すべてをご鑑賞いただけます。会員の皆さまは特典とおりご入館いただけます。



④アトリエでの平野勲氏
⑤1956(昭和31)年から26年間、『週刊新潮』の表紙絵を担当した画家・谷内六郎氏による平野勲賛
⑥平野勲氏「南部駒踊り」

特別展からご報告

平山郁夫展「次世代への伝言」

9/23(金・祝) ↓ 10/30(日)

会期中の入館者113,706人

青森放送株式会社とともに主催して、当館では3度目の開催となる平山郁夫展が盛会のうち終了いたしました。故郷・瀬戸内海浮かぶ生口島に開設された平山郁夫美術館の全面的なご協力をいただき、特別出品を含む貴重な作品群により画伯の生涯をあらためてご紹介する特別展となりました。涙ながらにご鑑賞されるお客様の姿も拝見するなど、多くの方々には深い感動を与えていただきました。



▲開幕を祝してのテープカット 9/22(木)
右から、青森放送株式会社代表取締役社長・石田稔様、七戸町長・小又勉様、平山郁夫美術館長・平山助成様、福士孝衛当財団理事長、七戸町議会議長・白石洋様、鷹山増子当館名誉館長

▼平山助成館長によるギャラリー・トーク 9/22(木)
町民、友の会会員をはじめ美術ファン、平山郁夫ファンが大勢参加し、熱心に耳を傾けていました。幼少期を過ごした生口島でのエピソードは画伯への親しみを一層深め、また、瀬戸内の風土が平山芸術にどれだけ大きな影響を与えたか…子どもの感性は風土の中で培われることを再確認しました。



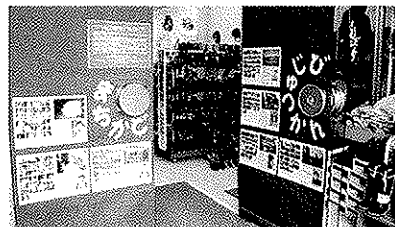
また、本展開催にあたり多くの皆さまの協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。



①茶道裏千家七戸会によるお呈茶 10/23(日)
②会期中の入館者5千人目となった青森市の武田まき子様ご夫妻 10/10(月・祝)
③会期中の入館者1万人目となった八戸市の山田知様ご一家 10/24(月)



④商店街での展示風景
お店の構造により展示法を検討し、15店に作品が飾られました。
⑤美術館内の写真会場
作品が展示された商店街のすべてのお店を巡ると、問題の答えに行き着く「1文字」をもらえます。後は美術館で答え探し…そんな仕掛けを用意しました。ただただ子どもたちに楽しんでもらおう!その一念です!!



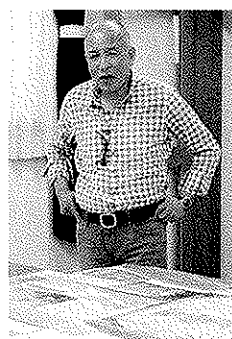
私たちの生活の今一番身近にあるアート、「写真芸術」の現在、多彩な表現と「写真美」をご体感いただける特別展「国際写真サロン展」。本年は連動して、町内の保育園幼稚園の5歳児さん25名を対象に、「七戸の好きなところ」をテーマに写真で表現していただく「まちかど美術館」を併催しました。七戸町の協力店舗と美術館を会場に作品展示&仕掛けを用意!素直な心と豊かな感性の持ち主・子どもたちのとらえたステキな七戸をご紹介しますながら、町の魅力を再確認する!そんな楽しい企画となりました。

私たちの生活の今一番身近にあるアート、「写真芸術」の現在、多彩な表現と「写真美」をご体感いただける特別展「国際写真サロン展」。本年は連動して、町内の保育園幼稚園の5歳児さん25名を対象に、「七戸の好きなところ」をテーマに写真で表現していただく「まちかど美術館」を併催しました。七戸町の協力店舗と美術館を会場に作品展示&仕掛けを用意!素直な心と豊かな感性の持ち主・子どもたちのとらえたステキな七戸をご紹介しますながら、町の魅力を再確認する!そんな楽しい企画となりました。

第71回国際写真サロン展 & まちかど美術館

11/3(木・祝) ↓ 11/13(日)

会期中の入館者17,919人



⑥審査会にて、審査員長で二科会評議員の濱田進先生 9/1(金)
⑦鷹山賞を受賞された甲地香南子さん(左)と洞内那美さん(右)、お二人の頭上に展示されているのが鷹山賞受賞作品です。「アジサイ」を丹念に描いた甲地さん。木版画で2年連続しかも姉妹で受賞されている洞内さん(姉)はついに鷹山賞受賞を果たされました。授賞式は11/19(土)

鷹山賞児童作品展は9月30日、10月1日の2日間にわたって審査会が行われ、応募総数862点もの力作から入賞29点、入選81点が選出されました。只今、地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展60点とともに、入賞入選全110作品をご紹介します。ちよびり「元氣」を分けてもらいたい方!是非ご来館いただき、心洗われる子どもたちの純粋な感性に触れ、リセットしてみたいかがでしょう。オースメいたします!!

第11回鷹山賞児童作品展 & 地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

11/20(日) ↓ 2012 1/22(日)

只今開催中!!

「美術館はじき」の制作

今回は、9月11日より10月16日迄の間、全5回に渡って開催した「日本画を描いてみようの様子を」紹介します。

美術館ではよく開催されている日本画の展覧会ですが、その作品がどのようにして描かれているのかは、意外とわからないもの。「日本画ってどうやって描かれているの?」そんな疑問にお応えしようと企画しました。秋に開催した《平山郁夫展》会期中は、平山郁夫画伯の実際の作品を鑑賞しながら、日本画の制作手順を勉強しました。日本画の行程は非常に多く、作品が完成するまでには、かなりの時間を要します。参加されたみなさんにも、手順を追って体験していただきました。



①【下図】の制作
今回のモチーフは「つぼみゆり」です。日本画独特の画材である【胡粉(こふん)】の扱いを体験していただくため、白いお花を用意しました。絵画の要となる下絵は、対象をとにかくよく観察して制作することが大切です。葉っぱの表と裏の色の違いや、花びらの重なり、自分が見た「ゆり」の記憶を忘れないよう、全てを下絵に詰め込みます。後に花が枯れてしまっても、この下絵をもとに作品を制作していきますので、細部まで気を抜

かずに仕上げます。通常このような下絵は日本画の世界で「大下図」と呼ばれ、大下図の前には大まかに絵の雰囲気を表す【小下図】を制作します。今回の場合は下絵と本画が同じ大きさですので、この下図が【大下図】となります。

②【地塗り】

日本画で使用する白い絵の具を【胡粉(こふん)】といいます。この絵の具を和紙へ1〜2回塗ります。この作業を行うことで、これから重ねていく色の発色がよくなるようになります。

③下絵を写して【骨描き】

完成した下絵を、トレーに入用紙等を使って和紙に写し、墨をなぞっていきます。これを【骨描き(こがき)】といい、これから色を重ねていく際にも重要な線となります。ただなぞるだけではなく、手前のものと奥にあるものとの「線と線の関係」を意識しながら描きます。

④【具墨】【下塗り】

【具墨(ぐすみ)】とは、胡粉と墨を上手く使って濃淡を調整し、骨描きした絵に陰影をつけていく作業です。自分が描いた下絵を白黒写真に置き換えたらどうなるか、常に下図を参考にしながら進めます。この作業をしておく、絵に立体感が増し、彩色しても深みのある画



面を創っていくことができます。

【具墨】が終わったら、好みの色を上げからかぶせます。これが【下塗り】です。骨描きが見えなくなならない程度に色を重ねていき、背景をつくります。

⑤【彩色】

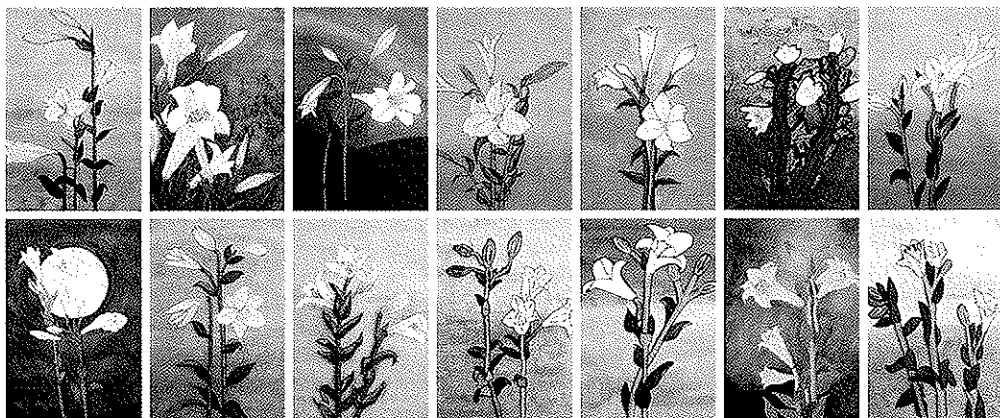
ここからは、好きなように色を重ねて絵画をつくっていきます。

日本画の絵具は、岩石や人工石を砕いて粉にした【岩絵具】と、【膠】という接着剤を水にとかした膠水を混ぜてつくります。その



の都度よく練って絵具をつくるため、使いたい色をそろえるのにも時間がかかります。どの絵具も1度塗ったくらいでは薄くべらべら、試行錯誤しながら何度も重ねるうちにやがて理想の色がそこに現れたりします。特に胡粉は、繰り返し重ねることで、美しい白となります。1日3時間の活動時間も、あつという間に過ぎていきました。

みなさんが口々におっしゃっていたのは、「絵皿についた色と、画面に塗って乾いた色が全然違って、イメージ通りに進まない」ということです。それほど日本画の絵具は扱いが難しく、1点の作品制作にも膨大な時間が費やされていることをあらためて実感し、日本画家として活躍されている先生方へ感服の念を抱かずに



上記日本画をはじめ体験講座で制作された作品は、新年1月22日(日)まで廣山亭一記念美術館で特別展示中!是非ご鑑賞ください

美術館誌 pickup

【OPEN】

▼15日(水)

十和田市立南小学校5年生110名様が学校の授業の一環としてご来館。鷹山作品を中心に常設展をワークシートを活用しながら鑑賞。お気に入りの1枚の絵から「物語」を創作していただきました。柔軟な感性と自由な発想、そして逞しい想像力はさすがです！ステキなストーリーが誕生しました！このワークシートをもとに、平山郁夫展の鷹山宇一常設展を構成させていただきました。

▼16日(金)

七戸高校職場体験で当館での実習を希望され、15日からの2日間美術館の様々な仕事を体験していただいた向中野さん。最終日のこの日は、平山郁夫展会期中に紹介する鷹山作品の展示を体験していただきました。この仕事に興味を持って取り組まれる方の姿勢は動作に素直に表れます。そこに年齢差や職業歴は関係無いのだと実感いたしました。向中野さんwonderful!!お疲れ様でした。

▼22日(水)

「平山郁夫展」開催式が行われました。当日は、平山郁夫美術館から館長の平山助成様ご夫妻、学芸員の

別府様も出席され、会期中の盛会を祝いました。平山助成館長によるギャラリー・トークでは、館長としての視点のみならず、ご家族ならではのエピソードを交えた貴重なお話を頂戴しました。

▼27日(火)

幼稚園の交流遠足会場として当館が利用されました。青森市から新幹線はやてを利用して来館した甲田幼稚園の子どもたちは、六戸町・小松ヶ丘幼稚園のお友だちと一緒に平山郁夫展を鑑賞して、中庭でお弁当を食べたり、仲良く遊んだり。秋晴れの下、心温まる光景が広がりました。新幹線を活用しての遠足&当館の利用！このような活用法もあるんですね！これからも大歓迎!!デス

▼30日(金)

鷹山賞児童作品展の審査会が行われました。今年も京都から審査員長で二科会評議員の洋画家・濱田進先生がお出掛けくださいました。いつもスタッフにまでお心遣いくださり、気さくに声をかけてくださる先生に敬愛の念を抱かずにはいられません！

【10月】

▼13日(水)

南公民館講座「アートのたしなみ③」が当館で開催。最終回となる今回のテーマは開催中の平山展。本年全3回の講師を承った学芸員は、その都度講座を通じて多くのことを学習させていただきました。こちらの

方が感謝！なのでした。

▼16日(日)

全5回ではじまった「あーっと！くらぶ」の日本画制作講座も最終回。なかなか体験する機会のない日本画の制作。平山展でホンモノに親しみつつ、ご自身の日本画制作に挑戦された皆さんは、旺盛な探求心で熱心に作品を制作！お好きでなければこうはいかないハズ！その集大成を只今館内で特別展示中デス!!世界でたった一つだけの作品を仕上げた皆さんの力作を、ぜひご覧ください。

▼20日(水)

NHK仙台放送局「情報パレット」に当館が取り上げられました。東北6県に生放送される美術館の情報発信コーナー。今や日帰り圏の仙台周辺からも、新幹線を利用して沢山のお客様にご来館いただきたいと思います。お客様には充実の一時をお過ごしただけのよう、魅力ある事業の企画をあらためて肝に銘じました。

▼23日(日)

茶道裏千家七戸会のご協力をいただき、恒例のお呈茶のサービスを実施いたしました。特別に設えていただいた優美な会場で、お抹茶とお菓子をいただきます。心穏やかな時間を頂戴しました。

【11月】

▼1日(火)

平山郁夫展終了に伴い、31日の作品返却作業に引き続き、11月3日か

らはじまる国際写真サロン展開準備。かなりタイトなスケジュールで展示替え休館&作業となりました。手際の良いスタッフのお陰様で無事初日を迎えられるホッと一息、感謝感謝なのです。

▼4日(金)

ホッとしたのも束の間、昨年に引き続き2回目の開催となる「まちかど美術館」準備と展示に連日夜の10時11時まで作業が続きました。本番は5日・6日の2日間。七戸町内の全保育園、幼稚園の5歳児さんに撮影してもらった「大好きな七戸」が商店街を飾りました。子どもたちの喜ぶ顔がみられたなら：頑張ることができたのはその一念です。

▼11日(金)

河北新報社さんの特集「ミュージアム回廊」魅力再発見に当館が取り上げられ、仙台から記者の高橋様が取材に見えました。「画家への敬愛の力を源に地域の文化や美術を愛する心を丹念に育てている」と評されています。うれしいですね♡

▼19日(土)

鷹山賞児童作品展入賞者授賞式と展示会の開催を祝して開催式、ティーパカットが行われました。晴れやかな子どもたちの笑顔がスタッフの疲れを癒します。私たちが長年目に見えない地道な作業を続けてこられたのも、この瞬間があるから、大切だから。そしてこのような道を選んだのは、誰のせいでもない自分自身です。

プラド美術館所蔵
ゴヤ 光と影 がみたくて

深まる芸術の秋の日に、たまには都会の空気にも触れたいと思い、東京・上野公園内にある国立西洋美術館で開催している、スペイン美術の巨匠「フランシスコ・デ・ゴヤ（1746-1828）」の作品をみに行きました。

訪れるたびに懐かしさと親しみが増してくるJR上野駅・公園口から改札を出て、上野公園のシンボル・西郷隆盛銅像をながめ、上野の森美術館、公園管理所、正岡子規記念球場をほんの少し散策してから西洋美術館へ向かいました。お目当ては、もちろん、40年ぶりに来日したというゴヤの円熟期の傑作《着衣のマハ》。見ているつもりの方が見つめ返され、見透かされているような眼差しと毅然とした存在感に圧倒されました。



左側 西洋絵画の巨匠40号の表紙
右側 「ゴヤ 光と影」パンフレット



鷹山宇一記念美術館友の会 寄贈蔵書
「世界の美術館」シリーズ 全100冊
「日本の美術館を楽しむ」 全50冊
「西洋絵画の巨匠」 全50冊
*専用ファイルに収納。ご活用下さい。

40年前のゴヤ展が気になり調べたところ、国立西洋美術館で、1971年11月16日から翌年1月23日に開催され、スペイン絵画史上初めて、女神ではない生身の女性の裸身を描写した《裸のマハ》も一緒に展示されたそうでした。その《裸のマハ》を覆い隠すために描かれたともいわれているのが、今回展示されている《着衣のマハ》なのだそうです。

帰宅後、NHK日曜美術館で放送された「永遠の“マハ”」がゴヤが見つめた女たち」を見て、西洋美術館での感慨を新たに致しました。

マハと出会った記念にと思って、ミュージアムショップで「週刊・西洋絵画の巨匠 ゴヤ」を購入したのですが、鷹山宇一記念美術館に漫画家・平野勲展を見に行ったところ、友の会の寄贈蔵書コーナーに専用ファイルに収納され、全50冊が並べられていました。

今度、どこかの企画展を訪れるときは、鷹山宇一記念美術館で調べをしてから、出かけたいと思っています。

秋山庄太郎
写真芸術館を訪ねて

写真家・秋山庄太郎氏が撮影された鷹山宇一画伯のすてきな雰囲気ポートレートを見ながら、上京する機会があったのなら、是非とも港区南青山の「秋山庄太郎写真芸術館」を訪ねたいと思っていました。が、十一月中旬に訪問することができませんでした。

訪れたとき、震災復興支援シリーズ企画展「えがおの日まで」秋山庄太郎写真芸術の70年」の第一部「生きる証」が開催中でしたので、1943年、23歳の出征前に死を覚悟して自費出版したという処女作品「鬚（かげ）」、抽象作品群「風描雨刻（ふうびようこく）」などを鑑賞することができました。

芸術館運営のコンセプトは「ここ



秋山庄太郎写真芸術館外観

ろの休み時間」。来館者に心安らぐひと時を過ごして頂きたいという願いと秋山庄太郎氏が40歳のころ、仕事を離れて約4ヶ月をパリで過ごしたことよってしているそうです。

受付の方に鷹山宇一記念美術館のことを話したところ「知っています。・・。」という返事がかえってきたので親しみが倍になりました。

帰る際、秋山庄太郎写真芸術館ニユースレター「花信」はなだより」創刊号と企画展「えがおの日まで」のパンフレット、さらに、日光みやげのお煎餅までもいただいでしまいました。暖かい家庭的な雰囲気なかで写真芸術を楽しみ、お土産までいただき、まさに「心の休み時間」を過ごさせていただいた写真芸術館訪問でした。感謝。

(照井)

ご利用案内

開館時間 11:00~16:30
(入館受付は、午後4時まで)
開館日 毎週土・日曜日(月~金祝日含む休館)
入館料 一般700円、ご高齢者(65歳以上)500円、学生(高校生以上)500円、小・中学生300円、障害者手帳をお持ちの方(及び付添1名)各300円
交通案内 宮団地下鉄 銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅よりA4出口より徒歩7分

*最新情報は、秋山庄太郎写真芸術館のホームページをご覧ください。

「ゴッホ・フェルメール・レンブラントを訪ねて」

日 程 表

- 1日目** 平成24年4月20日(金)
午後新幹線で出発→東京駅→成田へ [ホテル前泊]
- 2日目** 4月21日(土)
成田空港登壇(ANA)ロンドン乗り継ぎ→アムステルダム着。専用バスにてホテルへ [アムステルダム泊]
- 3日目** 4月22日(日)
国立クレラー・ミュラー美術館、国立博物館、国立ゴッホ美術館・レンブラントの家など [アムステルダム泊]
- 4日目** 4月23日(月)
アムステルダム観光(跳ね橋、王宮外観、アンネの家等)「キューケンホフ公園」見学。 [ハーグ泊]
- 5日目** 4月24日(火)
ハーグ市立美術館 (テルフトの眺望、真珠の耳飾りの少女他)。キンデルダイクで風車を見学。 [アントワープ泊]
- 6日目** 4月25日(水)
ノートルダム大聖堂(世界遺産)等見学後、ケントの聖パーフ大聖堂へ。ブルージュに移動。 [ブルージュ泊]
- 7日目** 4月26日(木)
ブルージュ→フルツセルへ。市内見学後タリス(高速鉄道)にてパリへ移動。 [パリ泊]
- 8日目** 4月27日(金)
夕方までフリータイム。夜、成田直行便にてパリ出発。 [機中泊]
- 9日目** 4月28日(土)
午後成田空港着→東京駅→新幹線で県内新幹線駅へ。



「夜警」レンブラント
アムステルダム国立博物館

第5回海外研修旅行は、左記日程により催行することが決定致しました。「ゴッホ・フェルメール・レンブラントを訪ねて」と題して巨匠の名画を堪能する「美術紀行」です。本研修旅行の説明会を平成23年1月14日(土)に美術館で開催致します。募集定員まで若干の余裕がございますので、参加検討中の方も出席してお話を聞いてみませんか。詳しくは美術館にお問い合わせ下さい。

○説明会 平成24年1月14日(土) 13:30から
美術館2階工房

○ご旅行代金 393,000円
(燃油サーチャージは含みません)

友の会会員登録の更新と新規会員登録のお誘いのお願い

新規会員登録のお誘いのお願い

平成23年も会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有り難う御座います。新年も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様にご協力いただけるよう研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。平成24年度更新手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により行っておりますので、よろしくお願い致します。

友の会の事業内容

- ① 県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ② 海外美術館研修旅行(第5回海外研修旅行) 2012年4月 オランダ・ベルギー美術紀行)
- ③ 美術館作品購入基金への協力
- ④ 鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤ 会報の発行
- ⑥ その他(美術講演会の開催等)

一般会員

年会費 3千円
特典 ① 無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引

特別会員

- (個人・法人) 年会費 1万円
- ① 会員証提示により個人・法人会員と同等の特典に加えて
- ② ミュージアムグッズ1割引
- ③ 研修会、講演会への招待、優待
- ④ 他美術館等の視察研修への優待参加
- ⑤ 会報の配布

賛助会員

年会費 2万円
特典 ① 会員証提示により個人・法人会員と同等の特典に加えて

◇ 詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★ 会費についてのお知らせ

会費の納入は随時受け付けておりますが、10月1日以降に新規会員登録の方は、翌年の3月31日まで、の会費となります。

☆ お便りをお待ちしています。

皆様の会報です。友の会へのご意見、ご要望、お便り、旅行記をお寄せ下さるようお願い申し上げます。

編集後記

★ 東日本大震災から九ヶ月が過ぎましたが、被災された方々の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

★ 会報第65号をお届けします。

★ 研修旅行など、友の会事業へのご参加をお願いいたします。

平成24年、会員各位のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。(照井)